



ASAHIYAMA ZOO

旭山 どうぶつえん ニュース

モユク★カムイ

★モユク・カムイ (アイヌ語でエゾタヌキのことです)



● 新雪の上にエゾクロテンの足あとが続いている。ちょっと斜めにずれた2つのあとが、ちょうどゲタのように“二の字二の字”と雪に印をつけている。からだの割りには大きな足あとだ。
『園内にテンが入っているぞっ』
一瞬、飼育係はみな緊張した。
すばらしい獣であると同時に、動物園にとって最も警戒しなくてはならぬ相手である。

● エゾクロテン

Hartes zibellina brachyura

●目次

- 2.3 肉食動物 その4
「イタチ・その他の仲間」
- 4.5 1988年、旭山動物園教育活動報告
- 6 動物園界の話題
獣医室から
- 7 飼育研究レポート
「シベリアヒョウの飼育」
- 8 動物園日誌
ポストコーナー
お知らせ

NO.

15

DEC.1988

特集 アライグマとイタチの仲間

今回で肉食動物の特集は終わりです。

今年は肉食動物の特集ということで、イヌ科、ネコ科、クマ科かの動物たちを特集してきました。食肉目にはこれら3科のほかにアライグマ科、パンダ科、イタチ科、ジャコウネコ科そしてハイエナ科の5科が分類されています。

今回は最終回で、旭山動物園にいるアライグマの仲間と、北海道にすむイタチの仲間の紹介をします。

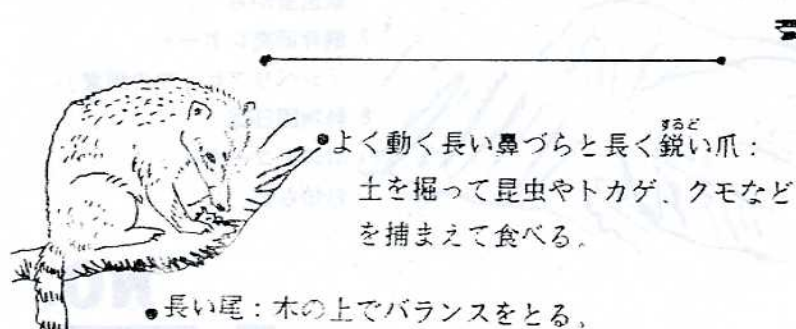
● アライグマ科: 7属16種に分類され、代表的なものに



アライグマ

何でも食べる雑食性で、木登りが上手。えさを食べる時手で洗うような仕草をするのでこの名がついた。

アライグマ、ハナグマ、レッサーパンダがいます。レッサーパンダをのぞき、全てアメリカ大陸に分布しています。



アカハナグマ

昆虫を好んで食べる雑食性。他のアライグマの仲間は夜行性だが、ハナグマは昼活動する。



キンカジュウ

樹上生活で、巻き付けることのできる尾を持つ。

● イタチ科: 26属67種にも分類される大きなグループです。カワウソやスカンクもこの仲間です。一般にオスはメスよりも大きくなります。



☆ 北海道にすむイタチ科の動物たち

★ 在来種

(昔から北海道にいたもの)

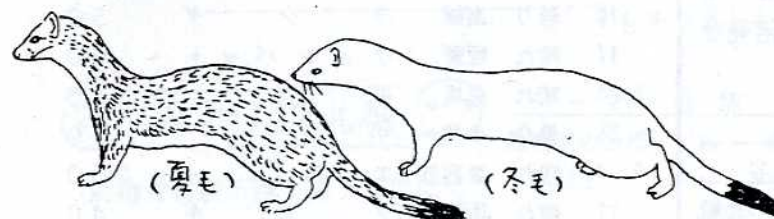
● エゾクロテン

美しい毛皮のために、かつては乱獲されましたが、現在は厳重に保護されています。2年前から旭山動物園へも冬の間姿を見せるようになりました。



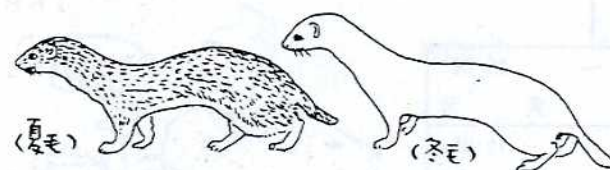
● オコジョ

イイズナよりも少し大型で、冬毛は尾の先の黒斑を除き純白となる。北海道では生息数が減少し絶滅が心配されています。



● イイズナ

最も小さい肉食動物で全長15cmくらい。ほとんど完全な肉食性で、野ネズミや小鳥を捕って食べています。冬は真っ白に毛換りします。



★ 移入種

(人が持ち込んだもの)

● ホンドイタチ

明治時代に野ねずみを退治する目的で移入されたものが繁殖し、旭川周辺にもみられます。皮肉な事に本州では絶滅が心配されているようです。



● ホンドテン

どのようにして持ち込まれたのか、はっきり判っていませんが、何時の頃からか北海道で見られるようになりました。旭川周辺にはまだ見られないそうです。



● ミンク

全道あちこちのミンク養殖場から逃げ出したものが野生化したもので、旭川にも普通にみられます。水辺を好み魚等を好んで食べます。体色はいろいろですが顎の下に白い斑紋があるのですぐに見分けがつきます



今年もたくさんあります。

昭和63年度旭山動物園教育活動報告



動物園では多くの市民の方々に動物やその生活環境などについて知って貰えるように、いろいろな活動をしています。中心となる活動は「サマースクール」「ワンポイント・ガイド」「ZOOガイド」「親子動物教室」などですが今回はそれらに動物資料展示館での「パネル展」を加えて報告します



サマースクール

第13回となった今年のサマースクールは8月1～3日の3日間、旭川市内20の小学校から45名が参加した。参加希望者は今回初めて定員の50名を割ったが、みんな動物が大好きな生徒ばかりで、連日30℃を越す猛暑にもかかわらず、元気いっぱい3日間を動物たちと過ごした。



観察発表

各班それぞれ、自分たちの行った観察や実験をもとに発表資料を作成した。発表資料は大きな紙にカラフルなイラストをおりまぜて書かれており、発表会では活発な意見の交換が行われた。

発表会

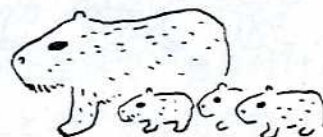
班	人数	発表内容
1班	11	アジアゾウとアフリカゾウの比較 アフリカゾウの採餌実験 キリンの採餌実験
2班	12	チンパンジーの採餌実験 カバのからだ調べ
3班	11	ネコ科とイヌ科の風船反応実験 オオカミの音反応実験
4班	11	アライグマの洗い行動実験 アカハナグマの知能テスト



1986年から始まったワンポイント・ガイドも今年で通算65回を数えました。もうすっかり定着し、旭山動物園の名物になったようです。講師役の飼育係もお話することに段々と慣れてきて、来年も張り切っております。

1988ワンポイント・ガイド

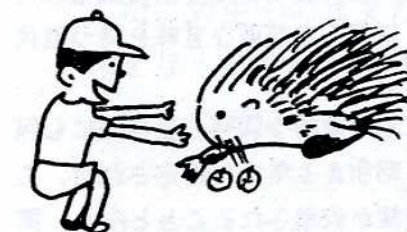
月	日	天候	担当者	テーマ	参加者数
5	8	曇り	高橋	アザラシ	110
15		晴れ	坂野	アライグマ	100
22		晴れ	深坂	ホッキョクグマ	200
29		曇り	小林	アフリカゾウ	120
6	5	曇り	曾我部	カバ	70
19		曇り	辻栄	エゾシカ	80
26		晴れ	坂東	動物園のお医者さん	50
7	3	晴れ	阿部	餌の話	60
10		曇り	高橋	ラクダ	50
17		晴れ	坂野	ウォンバット	60
8	21	晴れ	深坂	キリン	60
28		曇り	小林	サル	50
9	4	晴れ	曾我部	エミュー	260
11		晴れ	坂野	タヌキ	40
18		晴れ	辻栄	アムールヒョウ	30
23		晴れ	牧田	ゴリラ	60
25		晴れ	深坂	ユキウサギ	40
10	2	曇り	小林	カメ	60
9		曇り	曾我部	チンパンジー	100
10		晴れ	牧田	エゾリス	50
16		曇り	辻栄	オオカミ	30
					1680



8月1日	10:30～11:00 受付・開校式	～12:00 園内動物観察	13:00～ 昼食	～15:00 飼育実習
8月2日	9:30～	～12:00 飼育実習・観察実習	13:00～ 昼食	～15:00 動物教室
8月3日	9:30～	～12:00 観察発表資料作成	13:00～14:30 昼食	～15:00 観察発表修了式

夏休み期間中を利用して、家族を中心としたグループを対象に申し込みを受け、7月24日、31日、8月7日、14日の4回実施した。

教室の内容は「観察」「実験」「作成」を通して『動物』を見てもらうということで、1986年には『動物のからだ』、1987年には『動物の行動』、今年は『動物を作る』と『動物たちの夜』の2つをテーマとして実施した。



ZOOガイド

利用団体及び受講者数

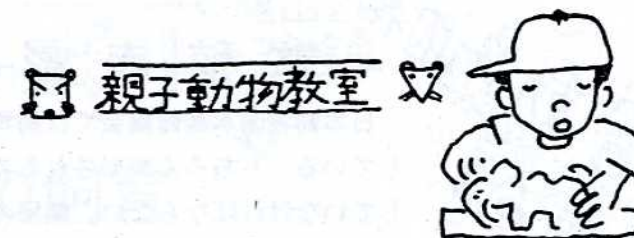
団体数	受講者数(大人、子供)
保育所・幼稚園	8 620(243, 377)
小学校	4 210(15, 195)
中学校	4 66(9, 57)
高校	1 44(40,)
大学	2 142(142,)
特殊学級	1 51(31, 20)
公民館	2 70(21, 49)
一般	10 701(364, 337)
32	1900(827, 1073)

引率者のいる団体を対象に、1～2時間のガイドを行いました。申し込み団体には原則として引率者の方に来演して、レクチャー担当者と事前打ち合わせをしていただき、有意義な学習となるように計画いたしました。ガイドのおもな内容は(1)解説、(2)飼育実習、(3)実験、(4)動物舎の見学などでした。本年度は32団体1900名の方たちが受けられました。例年の打ち合わせを基に独自でテキストを作成してくる意欲的な団体もありました。

特別パネル展

動物資料展示館1階フロアにて展示している「特別展」で毎回テーマを決め、今年も3回実施した。1985年の第1回パネル展『エキノコックス展』以来13回をかぞえた。

テーマ	期間	内容	展示物
動物園の台所 PART II	4/29 ～ 9/15	動物を食性の上から4つの型に分類し消化の仕組みを解説した (1) 雑食動物：ヒト、ゴリラ (2) 草食動物：ウシ、キリン (3) 肉食動物：ライオン、ワニ (4) 鳥：ガン、キツツキ	・アジアゾウ1日分の飼料 ・ヒト、ウシ、イヌ、ハトの消化器モデル ・ベレット、粒餌など餌の標本44種類 ・写真パネル45枚
第13回サマースクール発表展	8/5 ～ 9/15	サマースクールの受講生が発表会のために制作した観察・実験の資料を展示した	・発表パネル18枚 ・スナップ写真100枚
動物たちの冬	10/1 ～ 10/23	動物たちの冬の生活を5つの型に分けて解説した (1) 冬ごもり：ヒグマ、タヌキ (2) 冬眠をする：ヘビ、トカゲ (3) 渡ってくる：カモ、ツグミ (4) 渡っていく：ツバメ、シギ (5) 元気に活動：キツネ、シカ	・写真パネル50枚 ・解説パネル5面 ・立体地図1面



親子動物教室

日	時	テーマ	担当	天気	参加者数/家族(大人、子供)
7.24	10:30 12:00	動物の動きを描く (エゾタヌキ、ガチョウ)	阿部	晴れ	21/7(11, 10)
7.31	10:30 12:00	動物の動きを作る (ゾウを粘土で)	阿部	晴れ	26/9(12, 14)
8.7	19:00 20:30	夜の動物たち その1	坂東	曇り	54/20(27, 27)
8.14	19:00 20:30	夜の動物たち その2	坂東	晴れ	63/19(28, 35)
					164/55(78, 86)



繁殖表彰

日本動物園水族館協会では動物園や水族館での繁殖に対し“繁殖賞”を授与し表彰している。もちろん表彰されるのは日本で初めての繁殖であり、最低6ヶ月以上生存していなければならない。繁殖の区分として(1)自然に繁殖したもの、(2)人工哺育などで繁殖したもの、(3)人工授精で繁殖したもの、の3通りがある。旭山動物園でいただいた繁殖賞はホッキョクグマ(自然)、オオコノハズク(自然、人工)、エゾヤチネズミ(自然)、オオタカ(自然)の5つである。この繁殖賞は1回の繁殖に対してのもので、本来動物園の果たすべき「種の保存」に関して重要な意味を持つ継代繁殖の努力や成果については表彰する規定がなかった。

そこで複数世代に渡る繁殖の成功や繁殖法に関する画期的な開発、世界的にも例の少ない種の繁殖などについて表彰する“古賀賞”が昭和61年度に制定された。これによって飼育下の野生動物の繁殖における優れた業績が表彰されることとなり、第1回は「アミメキリンの繁殖と繁殖群の維持」(多摩)、「ローランドゴリラの繁殖」(京都)、「ネムリブカの水槽内二世繁殖」(沖縄海洋博)の3件が表彰された。

また、東京動物園協会が独自に、動物の観察や繁殖記録について表彰する“高崎賞”というものがある。本年12月10日、当園の牧田雄一郎が「エゾリスの繁殖」で表彰された。過去には現園長菅野浩が「ホッキョクグマの繁殖」で受賞している。

繁殖に対する努力は永々と続けられ、しかも地道で報れないことも多い。このような表彰によって飼育係の努力が認められることは大変うれしいことである。



ニホンザルやタイワンザル、アカゲザルの仲間はオスをリーダーとした大きな群れ社会を作って生活しています。オスにはこどもの頃を除いて厳しい順位があります。いわば“縦の社会”です。メスにも順位のようなものはあるようですがオスに比べたらいしたことはありません。野生の状態ではケンカして群れにいらなくなれば群れを出て、時には“離れザル”となっても生きていけますが、動物園では「囲い」があるために“離れ”られません。ケンカなどでけがをしてしまったサルを入院させて治療すると、治ったからといってすぐに元の群れへ返すわけには行きません。もし戻してしまうとまたケンカになって殺されてしまうこともあります。本当に強いオスがボスになればケンカが起ってもうまく仲裁してくれるのですが、どんぐりの背比べの中からボスが出た場合にはそこから中でケンカが起こってしまいます。どの動物園でも本当に頭のいたい問題です。

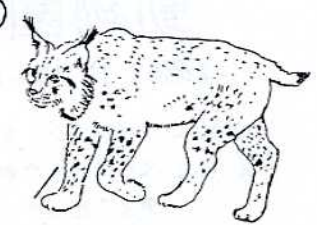


今年の 飼料寄贈者名 (敬称略)

『旭川市』 渡辺百恵 山内智子 村田杏子 高倉和美 阿部由記子 山内勇一 岸本健 菅原 木下寺雄 黒田 小西ひかる 尾形信雄 大西賢治 城久作 福田昌四郎 飯島宏昌 鷺見珠貴 川村智秋 高木和徳 阿部春行 菊池千代治 伊藤鎮夫 目良剛 宮武重松 須賀義信 城鉄治 山田操 石黒新二 高橋ゆり 宮谷秀一 イトーヨーカドー 旭川第二小学校 旭川第七小学校 旭川第二中学校
『道内』 渡辺正明(上湧別) 名寄幼稚園(名寄)
『道外』 土屋あゆみ(浦和市) 北村奈津枝(柏市) 小澤あかね(伊勢原市) 鈴木章(浜松市) 増井七穂(静岡市) 宮崎久常(茨城県) 正村ミチ子(川崎市) 佐藤美香(山形市) 半澤淳子(東京都) 山本淳子(喜多方市) 斎藤吉子(入間市) 平塚市立なでしこ小学校 松本市立明善小学校



旭山ZOOの記録 飼育研究レポート



シベリアヒョウの飼育

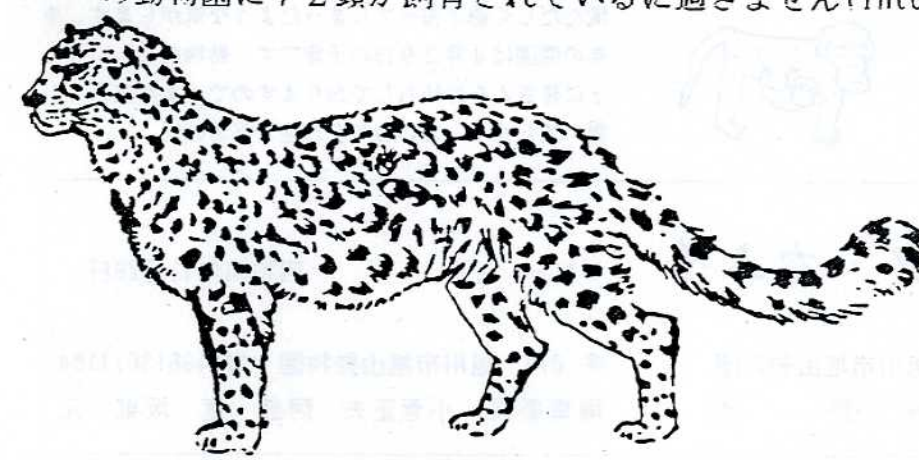
旭山動物園では昭和42年の開園から日本でただ一頭のシベリアヒョウを飼育していました。動物園の開園を記念してソ連から贈られてきたもので、サムという名前でした。野生そのままだったサムにとって、人間はたとえ飼育係であっても、毎日食べ物を与えてくれる動物ではなく、あくまで自分を捕らえた憎き敵だったようです。決して人に妥協することなく、自分の弱みを見せることはありませんでした。ある日サムの爪が伸び過ぎてしまい麻酔を掛けられたことがあります。そのときの悔しそうな目を今も忘れることができません。そのサムも昭和56年2月、19才という高齢でなくなりました。

その後シベリアヒョウの飼育を熱望していましたが、今年8月ようやく2頭のシベリアヒョウが旭山動物園にやってきました。オスはヘルシンキ動物園(フィンランド)の生まれで12月で2才になりました。名前は「ビッグ」“世界一大きなヒョウ”なので、大きく大きく育つように”と日章小学校の十倉康二君が付けてくれました。ビッグは顔や体付きがサムにとってもよく似たすばらしいヒョウなのですが、困った癖があります。ビッグは寝台にウンコをして、その横で平気で寝ているのです。そのウンコを部屋の隅のほうに移して「トイレはここだよ」と教えても、次の日には目の前にウンコを置いて寝ているのです。メスのほうはセンターヒル動物園(アメリカ)生まれで、来年2月で2才になります。名前は「エイラ」“大地の子エイラの主人公のように”と旭川市忠和の井上洋子さんが付けてくれました。エイラは動物園にきたときは体重がビッグの半分の26kgしかなかったのに1日3.5kgの牛肉、骨をバリバリ食べてどんどん大きくなり、太さではビッグに追いつくくらいになりました(少し肥満気味?)。そろそろ二頭いっしょにさせようかと考えています。

野生のシベリアヒョウは限られた地域に少数が生き延びているに過ぎず、絶滅が心配されており、国際保護動物に指定されています。飼育下でも世界中で13カ国19の動物園に72頭が飼育されているに過ぎません(International Leopard Studbook

1987)。幸い旭山動物園にやってきたビッグとエイラは血縁関係が少なく、シベリアヒョウを飼育している世界中の動物園から繁殖が注目されています。

(辻栄)



動物園日誌

《昭63.10.10～63.12.20》

- 10.10 ロウバシガン、キタキツネに襲われる
- 10.16 シベリアヒョウ命名式
オス「ビッグ」命名者 十倉康二君
メス「エイラ」命名者 井上洋子さん
ワンポイント・ガイド「オオカミ」
- 10.23 第5回旭山動物園ウォーク・ラリー
「88さようならウォーク・ラリー」
昭和63年度開園終了
- 10.24 閉園 冬期準備作業開始
- 10.29 アライグマ3頭、オシドリ6羽
盛岡市動物公園へ寄贈
- 11. 1 秋田市大森山動物園
技師浦山芳春氏研修～12.20
- 11. 7 チンパンジー♀1頭
仙台市八木山動物公園よりブリーディング
ローンで借り受ける
- 11. 8 ハイイロコクジャク3羽、ミミキジ2羽
コサンケイ2羽
大阪市天王寺動物園より受贈
- 11. 9 エゾライチョウ2羽
帯広畜産大学より受贈
- 11.11 第135回旭山動物園飼育研究会
「ホッキョクグマの繁殖計画」深坂
- 11.12 エミュー オス 1羽
名古屋市東山動物園へ寄贈
- 11.16 第36回日動水協動物園技術者研究会
「シロテテナガザルにみられた脳炎」小菅
「オオタカの繁殖」坂野（於 静岡～17）
- 12. 8 Zooガイド「北海道教育大学旭川分校
付属中学校2年生」
- 12.12 盛岡市動物園飼育職員研修～14
渡辺聡史氏
荒牧匡之氏
木村憲司氏
- 12.17 稚内市ノシャップ寒流水族館より
ゴマフアザラシ♀1頭受贈



ポストコーナー

職場訪問「動物園」下感したこと

附録中2年 清水有二

僕は、初田君と渋谷君と、キリンをやることに
なりました。担当は深坂さんという方下。最初に見た
とき「ヤクザに似てるな」と思いましたが、本当
はし、とても親切な人でした。動物の飼育をするには
やはり親切でなくてはならないと思います。

まずそのうしろじもやりました。おらやうんちを
一輪車に乗せるってすが、そこ下と、とても驚き、
感心させられたことがおこりました。担当の深坂さ
んが、素手下、手袋もはかずに、キリンのうんちや
ションベンをついたわらをつかんだことです。その
とき僕は、「この人は、本気で動物の環境を考えて
いるんだ」と感心させられました。その後、えさを
や、て、もと一度うしろじをしました。これを毎日や
るのだから、本当に動物のことを思、て、や、い
るんだなと深く感心させられました。



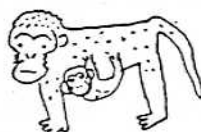
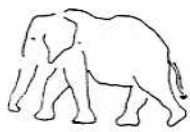
飼育動物数

(11月30日現在)

哺乳類	43種	192点
鳥類	76種	376点
爬虫類	4種	21点
合計	122種	589点

編集後記

なかなか積り始めなかった雪も、しっかりと例年と
変わらなくなってしまい、何だか変に安心してしま
いました。今年もあとわずかなり、1年間を思うとチ
ンパンジーやキリンの死に落胆し、カピバラ、ワビチ
など多くの動物たちの繁殖に元気づけられ、ただただ
慌ただしく過ぎ去ってしまったような気がします。来
年の開園は4月29日の予定です。動物たちといっし
ょに皆さんをお待ちしておりますので、また宜しくお
願い致します。よいお年をお迎え下さい。



モユク・カムイ

No. 15

昭和63年12月29日

発行所 旭川市旭山動物園

☎ 078 旭川市旭山動物園 ☎ 0166(36)1104

発行人 菅 野 浩

編集委員 小菅正夫 阿部 寛 坂東 元